

# Go for it !! ③

令和 4 年度 (2022 年度)  
5 年経験者研修 キャリアデザイン研修  
(中堅教諭等資質向上研修)

<https://toyono-jinjikyo.com/>

1 月に実施された第 3 回は、「教師としての自分のキャリアを描くこと」をテーマに、桃山学院教育大学の鎌田首治朗教授を講師にお迎えして講義をおこなっていただきました。著名人の言葉を紐解きながら自己理解や自分磨き、失敗を恐れず挑戦することの価値、日々子どもたちとの関わり方についてそれぞれが考え、自分のあり方を見つめ直す機会となりました。



## ～振り返りシートより～

日々の業務にいっぱいいっぱい「これからのキャリアについて」と言われてもはじめはピンとこなかったのですが、今回の講義で**自分のあり方について考え深めていきたい**と思いました。現代の若者が挑戦できないこと、失敗したくないと考えることをすごく実感しています。学級の子どもたちの中にも、やる前から失敗したくないと言っている子や、失敗してしまって大泣きしてしまう子がいます。場の設定、課題の設定など考えることが多いです。子どもたちの今の全力・ありのままを認める声かけをしていこうと思いました。

「本質的な失敗観」というお話が一番印象に残りました。研究授業を大勢の先生の前でしたり、部活動や学級で生徒指導をするときに今でも「これで大丈夫か？」と不安になることがありますが、先輩の先生が「サポートするから自分がやりたいようにやってみて」と声をかけてくださり、安心して取り組めたことがありました。今日のお話を聞いて、私も生徒が失敗することを心配していたら、**まずはチャレンジすることの大切さに気づけるような声かけをしたい**と思いました。そして、挑戦することをみんなが受け入れ、お互いに励まし合えるような雰囲気づくりを意識したいです。

今年度、初めて低学年を担当することになり、子どもたちのキラキラした目や、「やってみたい！」と失敗を恐れない姿を多くみることがあるなと感じていました。それがいつかマイナスになり成長を止めてしまうことがないように、**自分にも子どもたちにも前向きな言葉かけをしていきたい**です。

中学 3 年生の進路に携わると、生徒の自分に対する自信のなさ、失敗することへの恐怖心をより感じます。**できないから練習する、分からないから学習する、忘れるからくり返す、その積み重ねが成長につながる**のだということを、これからも生徒たちに伝え続けたいと思いました。

授業では、**わかる・できる・考えられる・もっとやりたい**となるように、**くり返しおこなうことで自信をつけて**、失敗してもよいと思えるような指導をしていこうと思いました。子どもたちに先生の失敗した経験やできなかったことを伝え、失敗しても大丈夫で、諦めないことでできるようになることもあるということを子どもたちに教えられたらと思います。

有名人の言葉には力があると感じました。**「心に火をつける教師」**でありたいと思いました。11のやる気スイッチは、知らず知らずのうちに使っているものもあれば、言語化していただけたからこそ理解できたものもありました。

失敗を恐れて挑戦をためらう子どもたちに対して、これまで「失敗してもよい」「失敗してもその先どうするかが大切」と話してきましたが、自分に置き換えてみると、自分も試験や仕事で失敗することは何よりも恐ろしいし、そのせいで予防線を張ろうとしてしまう癖があると思います。今、まだ経験の少ないうちに、そして先輩方がいらっしゃるうちに**失敗や間違いから学んでいきたい**と思います。**それを後輩の先生や子どもたちに伝えていけるようにしたい**です。

研修をきっかけに、内省し、気づいたことを活かしていこうとする姿がすてきですね！  
自分や子どもたちと結びつけて考えることに加え、職場の先輩・後輩についても思いをはせるのは、まさに指標の第 2 期で示されている姿ですね。(手引き P. 7～9 参照)



子どもの司（つらさ・かなしさ・さびしさ）に寄り添うことができているのかと自分自身を振り返りました。普段から真面目にがんばっている子の司にも寄り添い、気持ちを共有できる先生でありたいと思いました。そのためにも自分自身が人間として成長し続けること、成長するためには挑戦し続けることが大切だと感じました。この先10年20年をただ過ごすのではなく、目標をもちながら自分を磨き続けようと思いました。

今回の講義を聞いて、私は自分磨きの時間を取っていないと感じました。「する時間がない」というのは言い訳で、「やろうとしていない」というのが実際です。5年目になり、インプットのないまま毎日を過ごすことで最近悩みが増えてきました。マンネリ化していたのだと思います。これからのために自分の得意・不得意やクセを見直していきたいと思います。

教師になった頃に、先生というのは一生勉強していくものだと言われてきましたが、日々の忙しさにかまけて学び続けることがなかなかできていないのではと考えました。5年目になって、やっとルーティン化することができてきたものに甘えていた部分もあるなと思いました。この先5年10年と自分を磨き続けられる自分になりたいなと思います。

## 学び続ける教職員であるために

気づけば自分よりも経験年数の少ない先生が増え、校内や学年でも求められる役割が変わりつつある時期ではないでしょうか。自分が初任者のときに見ていた5年目・10年目の先輩を思い返すと、「自分が当時のあの先生と同じような役割を担っているのだろうか...」と考えることもあるかもしれません。「ミドルリーダーとしての役割の自覚」と言われると、その責務を重く感じてしまうかもしれませんが、チーム学校の中でみなさんがみなさんらしくいることが大切だと感じています。

今年度、初任者研修以来の法定研修として5年経験者研修を受講する中で、これまでの5年の経験を振り返り、これからの5年を見据える機会になるように実施してきました。研修をきっかけにこれまでの自分について立ち止まり、考えることも多かったと思います。初心に立ち返り、これまでの経験をもとにこれからの自分について思いを巡らせる機会になっていたら幸いです。



豊能地区教職員人事協議会は、「子どもとともに学び続ける教職員」をめざす教職員像とし法定研修を実施しています。もちろん校外研修だけが研修ではありません。校内で日々を過ごす中でも研究と修養を積み重ねることで、自分の強みを伸ばし、活かすことを意識してください。次の10年経験者研修でみなさんとどんな交流ができるか今から楽しみにしています。

最後に、この研修通信のタイトル「Go for it!!」は、「目標に向かって進む・頑張ってみる」という意味のフレーズです。「I think you should go for it」は、「やってみてほしいと思うよ」と訳せます。私たち教員は、夢や目標に向かう子どもたちを支え、励まし、時にはその姿に支えられ励まされる仕事だと思っています。みなさんが子どもたちの背中を押すように、研修はみなさんの「学び続けること」を支えています。



みなさんの今の目標は何ですか？5年後の自分の姿をどのように思い描いていますか？今はまだぼんやりとしか描けていない5年後にむけて、この一年間の研修で学んだことや考えたこと、今感じていることをもとに、まずは「やってみる」ことを応援しています。そのような心意気をもつみなさんが、学年や校内にとどまらず、今後はそれぞれの市や町を中心となっていくことを大いに期待しています！！

「教職員研修」についての情報は、所属市町教育委員会（教育センター）からの連絡・案内以外にも、豊能地区教職員人事協議会（<https://toyono-jinjikyoo.com>）や、大阪府教育センター（<http://wwwc.osaka-c.ed.jp>）のWebページからも確認できます。それぞれの課題や現状、キャリアに応じて、今後も主体的に学び続けてください。